

萩

ネットワーク

第 51 号 2003 年 5 月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

萩で一番先に咲くといわれる市役所前のソメイヨシノは国道191号線の拡幅事業であわや伐採の運命を辿ろうとしていたが、多くの市民の声に支えられ、道路の設計が変更され、桜は残ることとなった。4車線の中の島のような場所が今年も美しく咲く誇っていた。(野村萩市長の4月15日号市報コラムから)

昨年3月末、萩高校12期生(代表 光國良子)が還暦記念として中央分離帯に植樹されたソメイヨシノ15本も順調に育っています。今年も還暦記念として萩高校14期生(代表 久保孝文)が椿東の陶芸の村公園に桜26本を、萩商業高校の昭和36年同窓生の皆さん(代表 岡野雅治)が伊藤博文旧宅広場にシダレザクラを植樹されました。高校同窓生の記念植樹の輪が広がっています。

今年も美しく咲いた

萩市役所前中央分離帯の桜



5・6月のイベント紹介・・・・・・・・・・P2
 還暦記念に桜を植樹・・・・・・・・・・P3
 萩400年の物語 第15回(北村知紀)・・・・P4～5
 ズームアップ[渡邊義生]・・・・・・・・・・P5
 高杉晋作は永遠か(中津嘉和)・・・・・・・・P6
 見島ダイビングステーション・・・・・・・・P7
 萩の新魚市場 開場1年[藤田勲]・・・・・・P8
 萩発 旬の味便り「イサキ」・・・・・・P9
 同窓会だより・・・・・・・・・・P9

萩国際大学コーナー・・・・・・・・・・P10
 市町村合併の動き・・・・・・・・・・P11
 目 夢追人[崔美由紀]・・・・・・・・・・P12
 三輪休雪・龍作 襲名・・・・・・・・・・P13
 次 浦上記念館だより・・・・・・・・・・P13
 情報アラカルト・・・・・・・・・・P14～15
 幕末・維新こぼれ話・・・・・・・・・・P16

5月もイベント満載!!

萩焼まつり

とき 5月1日(木)～5月5日(祝)

午前9時～午後5時30分
市民体育館

内容 萩焼即売(萩焼窯元・販売店62社による大即売会)、萩焼ろくろ体験(1人2000円、送料別。会場で受付)、萩特産品の即売(海産物等)、飲食コーナー、萩焼いろいろ展(各出店者が萩焼を展示、来場者の投票により、展示作品を抽選でプレゼント)
問い合わせ 萩商工会議所 (0838・25・3333)

萩・大茶会

とき 5月3日(祝)・4日(休)

午前10時～午後3時
※3日は、午前9時30分から献茶式を行います。

内容 萩城跡指月公園、旧厚狭毛利家萩屋敷長屋
●薄茶4席の接待
●琴・尺八の演奏(指月公園内 午前11時～、午後1時～)
●生け花展(旧福原家書院)
茶券 1席券1650円
問い合わせ 萩市観光課 (0838・25・3139)

浜崎伝建

おたから博物館

藩政時代から明治・大正・昭和中期にかけての多くの町家が残されている浜崎を舞台に、伝統的な町並みや町内の家々に伝わるおたからの数々を楽しんでみませんか。

浜崎地区は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことにより、平成14年度には、3件の伝統的建造物の保存修理を実施し、伝建地区に相応しい景観づくりに努めています。

とき 5月18日(日)
午前9時～午後4時
ところ 浜崎本町筋周辺

■見どころ

○おたから 松林桂月の掛軸、伊藤博文の書状、吉田松陰の書額、享保雛、明治時代の手動ミシン、火縄銃
○催し 御船倉でのフルート・バイオリンの演奏(午前11時～、午後1時～)、伝建物見学ミニツアー、浜崎伝建なんでもフリーマーケット、竹とんぼ・お手玉の制作、南京たますだれの実演
○お食事処 雑魚場食堂(海の幸)、水産加工品(てんぷら等)、押し寿司、焼き鳥、さざえの壺焼き

萩・夏みかんまつり

問い合わせ 萩市まちなみ対策課 (0838・25・3104)

今年の萩・夏みかんまつりは、16日間にわたり開催します。全国かおり風景100選に選ばれた甘い香りを身にまとい、かんきつ公園を散策しませんか。

とき 5月10日(土)～25日(日)
午前10時～午後3時
ところ かんきつ公園・旧田中別邸(平安古)

内容 夏みかん商品の展示、「陶と花」(萩焼による生け花展)、春の花いっぱいコンクール写真展、萩・椿まつり写真コンテスト写真展、合唱「夏みかんの歌」(10日)、郷土芸能披露(10日)、夏みかん

萩・菊ヶ浜

アイアンマンレース

ガイド(期間中の土・日曜日)、夏みかんガイド物産市(土・日曜日)、特産品販売(土・日曜日)、抹茶席(日曜日)など。
問い合わせ 萩市観光課 (0838・25・3139)

今年も鉄人たちによるスイムとランの熱い闘いが開催されます。皆さんも萩の夏の始まりを告げるこのレースに参加してみませんか。

とき 6月29日(日)
ところ 菊ヶ浜海水浴場(受付)
問い合わせ 萩市観光課内萩・菊ヶ浜アイアンマンレース実行委員会 (0838・25・3139)

第13回

萩焼まつり



土と生命の炎が



織りなす陶芸の祭典



とき 5/1(木)～5/5(祝)
午前9時～午後5時30分
会場 萩市民体育館

萩焼即売会
萩焼ろくろ体験
萩焼いろいろ展
萩特産品販売



新焼作品観のご案内
※ 4/19(土)～5/16(日) 午前9時～午後5時
※ 5/17(日) 午前9時～午後5時

2003 萩のまつり カレンダー

- 【6月1日(日)】
○おしくらごう(橋本川下流)
- 【6月7日(土)】
○ほたるまつり in やまだ(山田地区)
- 【8月1日(金)】
○萩・日本海大花火大会(菊ヶ浜海水浴場)
- 【8月1日(金)～3日(日)】
○萩夏まつり(住吉神社・吉田町)
- 【8月13日(水)～15日(金)】
○萩・万灯会(大照院・東光寺)
- 【10月中旬】
○萩魚まつり(萩シーマート周辺)
- 【11月9日(日)】
○萩時代まつり(萩市内各所)
- 【11月下旬】
○萩クロマグロトーナメント(見島沖)
- 【12月14日(日)】
○萩城下町マラソン(萩市内各所)

還暦記念に桜を

記念植樹の輪が広がっています

萩高14期生（昭和37年卒）

3月1日、萩高14期生80人が今年還暦を迎えるのを記念して、椿東の陶芸の村公園展望広場に桜の木26本を記念植樹しました。



久保孝文さん

同期会代表の久保孝文（萩市土原）さんは、「皆の意見で、死んで咲く木よりもすぐに咲く木を、ということ、かなり大きい桜を植えました。品種も樹齢70年のソメイヨシノより後世まで残る桜を探して、薄墨さくら22本、仙合しだれ2本と長州ゆかりの長州緋桜を2本、合計26本を選びました」と話していました。既存の桜24本と合わせて50本の桜の花が、今年は見事に咲いていました。来年は、この桜の下で同期会をする計画があるそうです。

また、来年からは卒業した高校は関係なく、還暦祝いの桜植樹をという声もあるそうで、萩の町に新たな桜の名所ができていくかもしれません。

萩高花見の同期会についての連絡は、久保さんまで（08388・22・1684）

萩商昭和36年卒業生

昭和36年に萩商業高を卒業したメンバーが、4月10日シダレザクラ2本を萩市に寄贈し、伊藤博文旧宅隣の広場で、還暦記念の植樹を行いました。

萩市では、歴史的な趣や周囲の景観などから伊藤公旧宅内の広場を選び、同窓会代表の岡野雅治さん（萩市椿東上野）ら7人に記念植樹してもらいました。



萩高12期生（昭和35年卒）

昨年3月末日、萩高12期生239人（代表 光國良子さん）が還暦記念植樹として、ソメイヨシノ15本を萩市に寄付し、萩市役所前中央分離帯に植樹しました。これらのサクラは、国道191号拡幅工事の際、市民からの要望で、中央分離帯に残されたソメイヨシノ（萩市の開花基準木）と調和させて植樹され、中央分離帯は、常緑の地被類や下水道工事で発生した笠山岩を景石としてリサイクル利用し、庭園風に整備されています。

昨年11月には、市民の声をふまえた施設整備が評価され、国土交通省が選定する「手づくり郷土賞」を受賞しました（全国で26件が選定。萩市からは見島ゆりや湖も選定されており、中国地方では、萩市の2件のみ）。

昨年に続き登場！

コバルトブルー

昨年好評だったJR山陰線の展望車付き快速列車「コバルトブルー」が今年も登場。オーブンカフェタイプのおしゃれな展望車（一両）が特徴で、北長門国定公園の美しい海岸線の旅が楽しめます。6月までの毎週土日と祝日に東萩一下関間を1往復し、平日は団体列車として利用できません。

4両編成で、定員は124人。停車駅は長門市、川棚温泉、吉見。下りは東萩発午前8時45分、下関着11時22分。上りは下関発午後2時29分、東萩着17時51分。料金は東萩一下関間（片道）2400円。全席指定で乗車の1か月前から予約を受け付けています。

問い合わせ 東萩駅
（08388・22・0271）



藩主50年、萩藩初代 毛利秀就の奇妙（上）

萩藩の初代藩主はだれ？どんな人で、何をしたかと問われ、たちまち答えられる人はほとんどいないだろう。ところが、その毛利秀就こそは萩藩260年、13代の中で藩主の座にあること50年と圧倒的な最長記録を持つ。これに次ぐのは幕末の13代敬親の32年で、2代綱広と7代重就が共に31年だが、いずれも見べき業績を遺している。そこで、この初代藩主の不思議・存在感の薄さの由って来るところを探りたい。いかなる人物で何をしたか又しなかったのか。それは政治史である以上に毛利氏の家族史であり、人間のドラマであったような気がする。

父が残した乱行の記録

秀就がどんな人物だったかを知るにまたとない文書がある。外でもない、元和7年（1621）11月、久しぶりに江戸から萩に帰った息子に父輝元が与えた訓誨21力条である。その眼目は、幕府が大名統制に厳しい目を光らせ、行状が悪ければ徳川一門でも外様の大大名でも取り潰している。毛利の家を大切に思いくれぐれも身を慎め、というにあった。ところがこれが、よくもまあこれだけ我が息子の不行跡を並べ立てたものだと感嘆する記録なのだ。

その第7条。「これほど大事な時節なのに、お方は幕府への気遣いが少しもなく、夜昼慰安にふけり、家来もまきこんで夜を明かし大酒で皆がくたびれているという」。続く条で「夜眠らないから、昼に人前で眠るというではないか」と嘆いている。

他所との付き合いもいい加減だ。「よその使いと対面や返書も遅く、相手が腹を立てて会わずに帰り悪口を言ってるそうではないか」（第13条）。「江戸で客を呼んだりよばれたりする際、時にその約束したことを失念するという」（第15条）。

父は息子が藩主の基礎もできていないという。「江戸で家臣たちは幕府との事でも家中の事でもお方に伺いを立てねば前に進まないのに、尋ねると機嫌を悪くするので誰も言い出さず支障が生じている。特に対幕府のことは少し違っても一大事になる」。

振舞悪く家康の形見拝領もなく

この時、叱る父は69歳、息子はすでに27歳の男盛り。形式的とはいえ6歳で大毛利の家

萩藩初代として50年間藩主の座にあったが印象がうすい毛利秀就（『萩市史』より）



ことは出来ないぞ」（第11条）。

長年にわたって溜まった嫡子への不満と怒りと心配はとどまる所を知らない。中でも老父を危惧させたのが、大御所家康の病気見舞いに行った駿府と帰ってからの江戸で不謹慎な振舞を重ね、ついに家康の形見わけにあずかれなかったことだったようだ。

第19条に輝元はこう書いている。「お見舞いに行き駿河で逗留中、猿楽師に謡をさせ江戸に帰っては踊りをやらせたそうだが沙汰の限りだ。それだからだらうご遺言としてお方への拝領は何もなかった。ほかの衆にはいろいろ遣わされ、真に外聞がわるかった」

若殿の問題児ぶり早くから憂慮のタネ

実は、輝元の秀就への訓誨はこの時が初めてではない。少なくとも以前に2回は「毛利家文書」に証拠の文章が残っている。6年前の元和元年（1615）秀就宛の「存寄条々申し候」11条と、その2年前の慶長18年、秀就の後見・指導役たる毛利秀元、福原広俊両名に教誨を頼んだ「書状案」21力条だ。

息子秀就の乱行を心配し、訓誨に心を悩まし続けた毛利輝元（『毛利輝元卿伝』より）



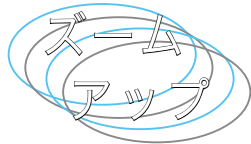
要するに、若殿秀就の言動は早くから家臣たちに問題視され、憂慮の種になっていて、大殿輝元へ逐一報告されていたのである。慶長18年の21力条も実は、「福原広俊が江戸邸で秀就公の起居をみ、遊逸に流れ、君徳に理とならんことを恐れ、近況を公（輝元）に知らせ、訓誨を請う」ていたのだ（『毛利三代実録』）。

初国入りでは領民を恐怖させる

慶長18年の21力条におかしな話がある。前々年の暮れ、初めてお国入りした若殿は江戸で「始めが肝心、手荒くして威を示せ」と吹き込まれ、領民を恐怖させたという。

父輝元は怒りと悲しみと、いささかのおかしさを堪えて記している。

「長門の帰国は上下の悦びおおかたでなく、皆が待っていたのに、来てみたら江戸風で今風で、大仰で下々に酷かったたので、国中の者がすくんでしまった。領国巡視では来ると聞くや山へ逃げ込み戦乱のよううで、通り過ぎると安堵したというではないか」



▶藩主秀就(ひょうしゅう)は江戸で人質生活10年、17歳で初めて萩城に入った。明治初年の萩城(『萩図誌』より)。

督をつぎ藩主になって21年がたつ。「長門(ながと) (秀就)は万事政治には無経験だから巧く行かぬのも尤もだが、早おおかた30にもなるのだから、奉行ら家臣の相手になり、ものも言わせ自分も聞かなければ人を活かせ

三者は多少の異同と表現の違いはあるが、叱責と怒りの内容に大差はない。そして、先に紹介した条文から察せられるように、父は江戸などでの息子の行状を詳しく的確につかんでいた。

これではまるで、暗愚な乱心者のバカ殿様だが、秀就がこうなったにはそれなりの理由があったと思われる。(つづく)
郷土史家 北村 知紀

元広島文化短期大学学長

渡邊 義生 氏

(広島市在住)



萩と私の関係はわずかに祖父との関係からきているに過ぎない。明治5年生まれ(1872年)の祖父は幼少期を萩で過ごし、青年期は東京で萩出身の政治家の書生として世話になり、成人し台湾で過ごした人である。この祖父が晩年、平安古の満行寺に墓を再建し、それを機に私も毎年出来る限り勤めている。萩の人々は維新のときと戦後の高度成長期に全国に進出されたと推測している。前者の子孫が現在の萩について語るのには不似合いと思うが、私も50年にわたる現役最後の月に依頼されたのも因縁と感じ一筆したためることにした。

明治人の気骨

私が小学校5年の時、仕事先の台湾から立ち寄った祖父に「将来どんな職業につくつもりか」と尋ねられた。私がどう返答したか記憶にないが、祖父の言ったことはよく覚えている。「職業はいろいろありどれも大切だ。しかし、人の命にかかわる仕事は特に大切だ。それは命を支える農業、命を救う医者、命を育てる教育の3つではないか」という趣旨の話であった。当時、軍国少年として育つ環境にあった私には、驚きでありその後常に頭に残り現在の自分に大きな影響を与えている。中学1年のとき、作文で自分の将来とすることでこの意味のことを書いた。皆の前で朗読させられた。戦時下の少年が命を捨てる話でなく軟弱と叱られるかと思いきや選んで発表させた先生は、教育者だったと思う。それに比べ私を含め多くの大人が、生きることの本質を説かないで経済至上的な生活指

熟年世代一考

向の子育てをしていることか。

萩出身の学生さんとのふれあいが今の私と萩の関係である。そこで感ずるのは萩への意識が薄れているというか語るのをはばかっているように思える。世界に目を向けながら日本の将来を考えた先人の先進性を総合学習あたりで取り上げたらと思う。私たちの世代は戦争を体験し、飢えと貧困を肌で感じ、敗戦から民主主義と経済復興を国是としてまい進し、高度経済成長により物質的豊かさを味わい、バブルを経験し方向性を見失うという一生の中でさまざまな経験をした。そのおかげで喜びも悲しみも感ずる豊かな心をも幅広くい考えが出来る世代に育った。最近、若い人たちに説得力があり共感される場合が多くなってきた。一時は化石と言われた世代が見直されてきている。卒業式のあと、ある学生から告辞の中で一番うれしかったのは、保護者のご苦労に

対する感謝の言葉を最初に述べられたことだったと話していた。若者と熟年世代が通じ合える時代になってきつつあることを実感した。世代間の交流が望まれる時代になってきた。

萩への一言

よく萩は通過都市だと言われる。確かに業者のツアーをみると東光寺と萩焼を見て次というのが多い。しかし、成熟社会の旅行は滞在型になるのではないか。それに応えられるものは萩にたくさんある。歴史、史跡、地場産業、文化、自然などをより深く知るための萩地域大学(市民大学)構想で全国に呼びかけるのも。また、町並み保存区域と新市街地帯を指定するなど街づくりのハード面も工夫すると面白いのでは、と思う。
■プロフィール 広島大学理学部卒、公立高校教諭、広島県教育委員会事務局などを経て、昭和57年から広島文化短期大学教授、副学長、平成13年学長

高杉晋作は永遠か



一坂太郎さん（1966年兵庫県生まれ、大正大学史学科卒）

晋作の遺品が生まれ故郷・萩へ

今年の1月末まで下関市の東行記念館で展示されていた高杉家所蔵の晋作関連資料が、萩市に寄託されることになりました。

1月に高杉家が同記念館からの資料の引き揚げを決定、野村萩市長は直ちに高杉家に寄託を申し入れ、来年11月開館予定の新博物館で展示、公開したい旨を伝えまし

た。また、同時に晋作研究の第一人者である元東行記念館副館長兼学芸員の一坂太郎さんに対して萩市に招へいしたい意向を伝えました。これを受けて、晋作のひ孫の高杉勝さん（東京都三鷹市在住）が「萩市に一括寄託したい」と返事し、晋作関連資料は萩に里帰りすることになりました。

高杉晋作史料3巻



先日、下関日和山公園の高杉晋作銅像下で一坂太郎さんと対談した。その日は銅像の周りのソメイヨシノがつぼみをふくらませ、陽光が晋作の顔に降り注いでいた。

高杉晋作といえば、一坂太郎と

連想するほど、研究者のなかでは一坂さんの著述は多い。とりわけ去年、マツノ書店から出た限定版の高杉晋作史料3巻は、今日まで収集された晋作史料としては質量ともに圧倒している。

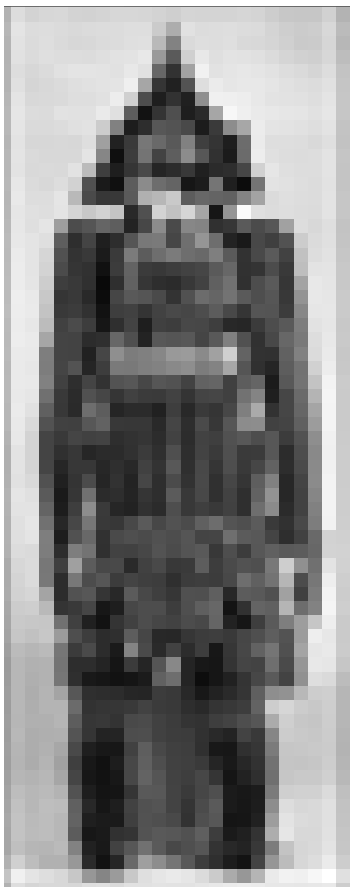
一坂さんとの対談で、テーマにしたのは、「高杉晋作は永遠か」ということだった。高い志を持ち、それに向かって不屈の信念を貫く。吉田松陰譲りの晋作の魅力は、どこから生まれるのか。混沌とした現在の世相に在って学ぶものは、一時の対談では、仔細な説明までは及ばない。

対談は、3月26日にケーブルテレビで放送された。このタイミングになったのは前日、生中継で放送された萩市議会最終日本会議で、一坂太郎さんを来年11月にオープン予定の萩市新博物館の学芸員として招聘しようという要望が出たからである。一坂さんが国史

跡の下関市吉田、清水山の高杉晋作墓所そばにある宗教法人「東行庵・東行記念館の副館長、学芸員を解職されたのは、1月末。東京都三鷹市井の頭に住む晋作のひ孫・高杉勝さんから「晋作の寄託遺品が安全に管理されない恐れがある」と、東行庵に返還が求められ、およそ270点の遺品引き揚げとなったためだ。

東京の大学卒業後、幕末維新の勉強を現地ですらと1990年に山口県に移り住んだ一坂さん。13年の時が過ぎて、晋作遺品とともに東行記念館を離れ高杉勝さんの代理人として残務にあたっている。その後遺品は高杉勝さんから萩市に寄託すると連絡があった。来年、11月オープンの萩市新博物館に、高杉晋作遺品が里帰り、一坂さんも活動の場所をそこに置くことになれば、と思っている。

「晋作を永遠にするのは、これから萩の人たちの熱意にかかると。全国に向けて発信してほしい」対談のしめくくりはそんなところだった。



功山寺で五卿にあいさつの際付けていた晋作の甲冑

萩ケーブルネット
トワーク制作部
顧問 中津嘉和

今年7月、見島にダイビングサービスが誕生

◆7月にサービス開始予定

萩市の北西45kmに浮かぶ孤島「見島」。日本有数の天然魚礁が形成され、さらに対馬暖流がぶつかるこの海域は、クロマグロの一本釣漁場としても有名。釣り人の間では「お魚の宝庫」として知られています。この見島の豊かな海洋資源を活用、都市部の人々との交流を図ることで、地域興しを行うと、漁協や漁業者が中心となり、この7月よりダイビングサービスが開始されることになりました。

◆魅力一杯のダイビングポイント

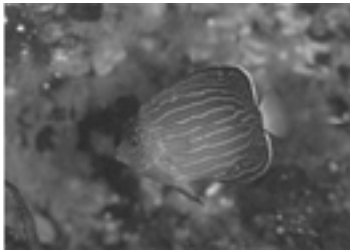
見島の沿岸海域は、日本海特有の比較的地味なお魚に加え、対馬暖流の影響を強く受けることから原色系の色鮮やかな熱帯魚も生息、さらにウミウシやイボヤギ・ウミトサカなどのサンゴ類なども豊富で、ダイバーにとっては垂涎のポイントと言われています。マリネリジャーによる地域興しの第一人者であり、見島のダイビングサービスにも計画当初から関わっている「クラブ・ノア」代表の松田猛司氏が実際に潜水調査したところ、沖縄の海にいるタテジマキンチャクダイやキンギョハナダイなどの熱帯性のお魚や希少種のウミウシが生息、また島周辺のどのポイントに潜っても悠々と泳ぐ大型マダイやブリの群れが数多く見られ、さらにクロマグロの姿を見られる可能性もあるとあって、ダイビングポイントとしての魅力は確認済み。「実際に自分で潜ってみて、見島の海は素晴らしい海だと思えます。萩市からさらに高速船で70分と交通不便な離島だからこそ、この生物層の豊かな美しい海が守られたきた訳です。時間を掛けてきていただいても、

きつと満足できる海をお見せできると思います」と松田氏。現在7月のサービス開始に向けて急ピッチでシャワー棟などの設備整備が進行、6月上旬には竣工の予定で

◆来年度は海の体験プログラムも

さらに、「平成16年度からはダイビングサービスだけではなく、見島の豊かな海洋資源を活用、各種漁業体験や磯の生物観察会、シーカヤックツアー、ジギング体験など「海の体験プログラム」を実施予定。まさに「獲る漁業」から「観せる漁業」への転換。多くの方々に見島に来ていただき、見島の海の魅力を体験してもらえよう」と願っています」と松田氏。●詳しい内容は萩の総合情報サイト「萩・情報の駅」に掲載します。ホームページアドレス
<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/>

熱帯性のお魚、タテジマキンチャクダイ



シンポジウム

萩広域における「自然体験型観光の可能性」



大小の島々が点在する萩湾は、シーカヤックツアーに絶好のフィールド（萩・倉江浜）

は、講師として和歌山県周参見町や徳島県牟岐町など全国各地でマリネリジャーにわたっているネイチャーネットワーク代表の松田猛司氏による基調講演に続き、萩広域地区の自然体験型観光の可能性について、地域内のプログラム実践者を通じてパネルディスカッションを行いました。

萩阿武広域8市町村の観光振興を検討する「萩広域観光チャレンジャー」が、3月26日開催されました。同協議会は、8市町村の商工会・青年会議所の若手メンバーや、自然体験プログラムの実践者達により構成され、萩阿武地区の豊かな自然資源を観光に活かそうと昨年11月に発足。今回のフォーラムで

同協議会では、これからの2か年で検討を深め、萩阿武地区ならではの独自性のある自然体験プログラムの開発、そしてエリア内の自然体験プログラムを束ね強力なプロデュースを行う運営法人を立ち上げることを目標として活動しています。



■松田猛司氏のプロフィール

1953年2月北海道生まれ、ネイチャーネットワーク代表の他、海外リゾートの運営や海の生き物を中心としたTV番組制作会社など、数多くの会社代表を務

める。地域活性化の分野では、和歌山すさみ町を皮切りに全国4か所ダイビングを中心に地域興しを行う運営会社（クラブ・ノア）をコーポラティブ方式で起業、萩・見島は5件目。平成14年度、国土交通省より地域振興アドバイザーを委嘱される。平成15年4月22日、見島におけるダイビングの運営会社（株）萩みしま海洋開発の代表取締役に就任。

開場1年

山口はぎ水産物地方卸売市場 市場長

藤田 勲氏 (51歳 萩市後小畑在住)

萩の新魚市場（山口はぎ水産物地方卸売市場）が開場して満一年。市場の司令塔となる藤田市場長に一年を振り返って頂きました。

昨年4月の開場当初はいろいろと混乱もありましたが、市場の運用も次第に安定し、業務もスムーズに流れるようになりました。水揚げも順調で、前年並みの取扱いは高を確保できました。市場の基本機能は、「集荷」「分荷」「決済」の3本。

「集荷」とは漁業者の漁獲物を

市場に集めることですが、漁業者と市場の職員の信頼関係がとても大切です。「あのセリ人に任せておけば大丈夫」と安心してもらえることが重要と考え、漁業者の信頼を得られるように職員に対して細かい指導を日々行っています。「分荷」とは市場に集まった漁獲物を、セリによって仲買人に分配していくことです。こちらも仲買人との信頼関係が何よりも大切で、日々、現場でのコミュニケーションを図るほか、定期的な連絡会議を開催するなど、仲買人サイドの要望や意見も市場運営に出来る限り反映し、お互いが協力して市場を盛り上げていくことができればと願っています。

開場1年。ますます活気のある市場でのセリ

いづれにしても漁



業者と市場と仲買人がお互いに信頼感をベースに協力していく土壌を作ることが重要と考えています。

「安寧」ももとは禪の言葉だと思いますが、心安らかな状態を言います。市場も人が沢山集まる場所。この市場に係る多くの人が、市場に来たら「安寧」のムードを感じてもらえるように、自分としても骨身を惜しまぬ努力をしたいと思っています。

◆プロフィール

昭和26年萩越ヶ浜生れ、51歳 椿東後小畑在住。県立水産高校・漁業科卒業。

自家用漁船に乗り組んだ後、昭和54年から山口県漁連に勤務、魚市場業務等を長く経験。平成14年8月から山口はぎ漁協に転出。現在は漁協の市場業務部長（山口はぎ水産物地方卸売市場 市場長）

東京の萩藩毛利屋敷跡から 永楽通宝出土

本誌47号（昨年9月発行）で、東京の赤坂と六本木の境の旧防衛庁の敷地にあった、萩藩の麻布下屋敷跡地の大発掘についてお知らせしましたが、発掘調査は現在も継続して行われています。

3月、江戸時代初期に建てられた萩藩毛利家屋敷跡の遺跡（東京都港区赤坂）から、地鎮祭に使われた金製「永楽通宝」2枚が出土しました。

戦国時代から江戸時代初期まで貨幣として流通していた永楽通宝



は銅製で、金製の永楽通宝はこれまで少数しか確認されておらず、地鎮祭跡から発見されたのは全国で初めて。

「鶴江の渡し」に新造船就航

藩政時代、松本川、橋本川には目代の渡し、椿の桜江の渡し等10か所の渡しがありました。明治以降、橋の架設が増え、必要性がなくなり、現在では鶴江の渡しだけが残っています。その鶴江の渡しに昭和58年以来20年振りに和船が造船されました。

鶴江の渡しは、正式名称を「市道浜崎鶴江線」といい、松本側下流の両岸鶴江と浜崎間82・5mを結んでおり、川が荒れない限り毎日無料で運行しています。



萩焼旬の味便り



イサキ

萩地区での旬は5月〜入梅頃

今回はイサキの登場です。漢字では「伊佐木」と書きますが、淡白で弾力のある白身が鶏の身に似ていることから「鶏魚」とも書きます。20cm以下の小型は、イノシの子供にあるような横じまが鮮明で、「すり坊」と呼ばれます。

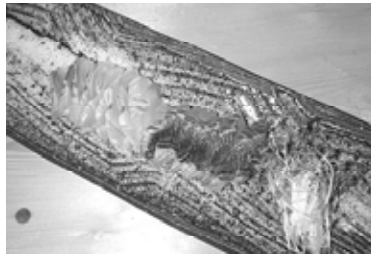
一般的には真夏を代表するお魚とされていますが、萩沖では4月中旬を過ぎると40cm近い大きさで脂の乗ったイサキが市場に水揚げされます。萩では5月〜梅雨入頃までのイサキがもっとも美味しいとされ、漁獲量も多いため、大型でも一尾1000〜1500円程度と手頃な価格で楽しめます。

上品な脂が乗った白身魚

上品な白身はマダイと並ぶ美味しさで、地元でも人気のあるお魚です。新鮮なものが手に入る地元では、お刺身が普通。塩焼きや煮

付け、小型は唐揚げにしても美味しく召し上がれます。

また、上品な白身は、バター焼や、クリーム煮など欧風の料理法にも向いています。比較的調理もし易く、小骨なども少なく、クセも無いためお子様にも食べやすいお魚です。



【おすすめメニュー】

おすすめは「松皮つくり」

三枚におろしたイサキの切身を皮をつけたままザルに置き、皮に熱湯をかけます。その後すぐ氷水で冷やし、水分を布巾で取り除き、刺身に引きます。ちょうど皮が松皮のようになるので、この呼び名がありますが、身と皮の間にある薄い脂肪層に旨みがあり、普通の刺身より美味しいとされています。

※お知らせ

NHK総合テレビ(山口放送局) 毎週水曜日11時30分からの番組「とくもり情報ランチ」で、「秋の旬のお魚情報」を毎週放映中です。

同窓会だより

大阪指月会総会

4月20日

大阪弥生会館(大阪市)

82人出席
席 会長
は中山光
夫氏(萩
高4期
卒)。
挨拶で
「大阪指
月会は戦
後すぐに
道助名誉
会長のも

と発足し、今年で58回目。自分は10人目の会長になるが、歴代の同窓会長は会社の社長が多い。現在、1500人の会員で、毎年1000人の総会出席を目標にしている」と大阪指月会の歴史を紹介されました。

同窓会連絡先は、
06-6458-6008(中山)



「21はぎ市民会議」

提言報告会

昨年6月から、教育・情報・観光・産業・環境・福祉・国際化・生活の8部会で活動スタートした「21はぎ市民会議」の最終報告会が、3月28日萩市民館で行われました。

各部長から提言内容と活動状況を報告があり、最後に約150頁の提言・活動報告書が、会長の岩崎喜一郎氏(東田町)から野村萩市長に手渡されました。

岩崎会長からは、提言の中には、具体的で実現性の高いプランもあるものの、テーマを絞り切れず提言には至らなかったものも多く、次年度以降も継続して議論を重ねていきたい旨の発言がありました。



野村萩市長に報告書を手渡す岩崎会長

野村萩市長からは、「いずれにしても市民の視線で議論を重ねてもらった貴重な提言として、役所内部でもじっくり検討したい」とのコメン

なお、提言書の詳細な内容は、5月の中旬までに萩市のホームページで公開される予定ですので、関心のある方はぜひご覧下さい。
<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagicity/>

三越「生鮮大市」で萩の魚介類をお買い求めください!

5月20日から26日まで全国の海の幸、山の幸を一堂に集めた催し物が三越全店で開催されます。

今回その中の都内近郊10店舗で、瀬つきあじや甘だいなど萩漁港直送の新鮮な魚介類が販売されます。ぜひこの機会にふるさとの懐かしい味をご賞味ください。

とき 5月20日(火)~26日(月)
販売時間 13時(吉祥寺店、多摩センター店、横浜店、上大岡店、千葉三越は14時~15時)
ところ 日本橋本店、新宿店、銀座店、池袋店、恵比須店、吉祥寺店、多摩センター店、横浜店、上大岡店、千葉三越の三越各店
※25日は萩の魚市場が休みのため、また、天候等の理由により商品が揃わない場合があります。

「おいでませ山口館」情報

村上新学長会見

「建学の理念に立ち、改革を進めたい」



村上 新学長

4月から新学長に就任した村上巨生学長（65歳）は、4月3日に記者会見し、大学改革に対する抱負を述べました。村上学長は、平成11年の建学当初から国際学科教授、図書館長を併任、平成13年には教務部長を務めており、大幅な定員割れという問題を抱える大学の再生の思いは強い。就任にあたり、「世界平和に貢献できる豊かな教養と国際感覚を持つ人材の養成という建学の理念に立ち、改革を進めたい」と述べ、また、「地域の期待に応えるため、科目等履修制度、図書館の開放などを進めてきましたが、更に市民の学びの場となる努力をしたい」と話しました。同じく新たに就任した畑地正憲副学長（64歳）から定員の削減、留学生の受け入れ体制等についての改革推進計画の中間報告が発表されました。

開学5年目の入学式

4月10日に入学式が行われ、45人が入学しました。昨年に比べ受け入れを厳選したため、留学生は38人（韓国2人、中国36人）と大幅に減少しました。入学式当日は、入国手続きの遅れや来日の交通事情から、留学生全員の出席はできませんでしたが、近日中には揃う予定です。また、日本人入学生は、最近の専門学校志向などの影響を受け、7人でした。今年の入学生数は定員を大幅に割っていますが、村上巨生学長、畑地正憲副学長による新体制の下で、魅力ある大学づくりに取り組まれています。

学生数 1年30人、2年197人、3年99人、4年92人、合計418人（4月8日現在）



入学式(4月10日)

初卒業生は144人

不況の中、就職・進学活動に健闘しました

平成11年4月の開学から4年が経ち、初めての卒業式が3月20日に行われました。

144人の卒業生の進路状況は、次のとおりです。

（平成15年3月31日現在）

○就職希望者91人に対する就職先決定者82人（90%）

主な就職先

- 萩市役所、邑智町役場（島根県）、自衛隊、世羅郡農協（広島県）、三次農協（広島県）、萩本陣、ワタミフードサービス、ジェイアール東海バスセンター、西ヤードシステムズ、サイゼリヤ、関門汽船、ジブラルタ生命等
- 進学希望者34人に対する進学先決定者 34人全員（100%）
- 主な進学先
横浜国立大学大学院、金沢大学大学院、山口大学大学院、福島大学大学院、山口県立大学大学院、北九州大学大学院、関西大学大学院、立命館大学大学院、近畿大学大学院等

萩市は市民の意見を政策に反映します

●萩開府400年記念事業準備委員会

市では、来年の萩開府400年を記念して、どのような事業を行うかを検討するため、「萩開府400年記念事業準備委員会」を設置しました。委員は16人で、うち4人が公募委員です。委員会では、提案されている60事業の審議・検討が行われており、7月には記念事業を決定する予定です。

●中央公園整備検討委員会

市では、現在、運動公園として活用されている中央公園（江向）を水と森を基調とした公園として、市民や観光客の憩いと交流の場として、また、災害時に緊急避難場所等として再生するため、整備計画を策定します。検討委員会の委員は16人で、うち2人が公募委員です。

●萩市観光戦略会議

近年、観光ニーズは大きく変化してきています。市では、観光戦略を見直し、観光振興の新しい活路を見い出すため、戦略会議を設置し観光戦略5か年計画を策定します。会議の委員は16人で、うち公募委員は3人です。

明治維新館 基本計画

3月19日、山口県が萩市に建設を計画している明治維新館(仮称)の最終の基本計画策定委員会が開催され、基本計画が取りまとめられました。

なお、建設候補地については、萩市の椿東の陶芸の村公園と江向の中央公園が挙がっており、土地の提供を行う萩市の意向を踏まえ、決定することになっています。

計画策定を受けて、県は今年度、計画を推進するための課題検討を行います。

計画の中で、明治維新館(仮称)

は「世界に広がる維新史回廊ネットワーク」の拠点の基本理念に、「明治維新をテーマとした多彩な交流機能を有する新しいタイプの歴史博物館」として位置づけられました。

展示は、幕末から明治初期までの日本全体の歴史の流れを示す「通史展示」を軸に、「吉田松陰と松下村塾」「高杉晋作と奇兵隊・諸隊」といった長州の維新史の動きを時代ごとに連動させる手法。展示品の例として志士たちの書簡や日記などを挙げています。

戸塚刺しゅう協会名誉会長

戸塚きくさん104歳で死去



萩市出身で国内61支部、海外2支部をもつ戸塚刺しゅう協会の設立者であり、名誉会長の戸塚きくさんが、老衰のため、平成14年12月3日に死去され、同月20日には、お別れ会が開催されました。

明治31年椿町に生まれる。18歳のときにフランス刺しゅうと出会い、独創的刺しゅうを考案。昭和27年に「戸塚きくフランス刺しゅう研究所」を開設。その後創作活動を積極的に展開し、昭和55年勲5等宝冠章を受賞。

南明寺境内に恩師の歌碑を建立

先生の愛された指月山を望むところ

元萩高校長で国文学者の大一中氏の7回忌にあたる今年、同氏の誕生日の3月1日に、指月短歌会と短歌結社「歌と評論」萩支部の会員が、南明寺境内に歌碑を建立しました。

大中氏は、昭和59年4月に教え子5人に声をかけ、同会を発足。短歌指導者として活躍。ガン病中の昭和63年7月には歌集「指月嶺」を自費出版。平成9年10月に死去。

死後正6位勲4等瑞玉章を受章されています。

会の世話人の山本洋子さん(萩市平安古)は、「先生のために何かをしたかった。先生の愛した指月山を望み、春にはシタレザクラを見下ろせる最高の場所を南明寺さんから提供して頂き、歌碑を建てられることになりました。短歌はその場所にふさわしいものを歌集から選びました。」

市町村合併の動き

2月28日 第1回秋広域町村合併協議会(合併協議会)開催
各市町村から6人(首長、議長、特別委員会委員長、住民代表3人)の計48人が出席。

3月16日 第2回法定協議会
基本4項目合意
合併の方式は新設合併
合併の期日は平成17年3月31日までの早い時期

・新市の名称については1市3町4村から一般公募し、市町村長の協議により、候補名称を数点選定し、合併協議会で決定する。
・新市の事務所の位置については、萩市役所とし、3町4村の役場庁舎については、(仮称)「基幹地区事務所」とする。

3月31日 第3回合併協議会
「新市建設計画」策定に伴う住民アンケート実施
合併後の新しいまちづくりの計画となる「紳士新市建設計画」を策定するにあたって、住民の意見や要望を反映するために1市3町4村の全世帯を対象としたアンケート調査を5月中旬に実施することになりました。また、「新市まちづくり構想」のダイジェスト版の配布、新市の名称の公募も併せて行われます。

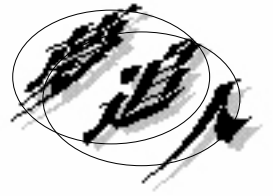
自然と歴史、文化に抱かれた

須佐町 田万川町 阿武町 福栄村 むつみ村 萩市 川上村 旭村

健やかで うるおいのあるまち



「南明寺 大いと桜 咲き満ちて 天降る五百重の瓔珞のかけ」 (平成7年の作品)



萩ケーブルネットワーク(株)

制作部次長

崔^{さい} 美由紀 氏(40歳)

(阿武町奈古在住)

この4月より阿武町・須佐町にサービスエリアを拡大した萩ケーブルネットワーク(株)で番組制作の責任者を務める制作部次長の崔さんに、お話を聞きました。

中学の頃から「夢はアナウンサーになる」こと

私が中学の頃は、ラジオの深夜番組が中高生の間で非常に人気があって、その中でも番組名は忘れてしまいましたが、落合恵子さん

(レモンちゃん)の番組が大好きでした。直接リスナーに向かって話しかけてくるような親しみのある語りにそれこそ熱中してしまい、自分も将来はアナウンサーになりたいと思いはじめました。高校に進んでも、アナウンサーの夢は持ちつづけ、放送部や演劇部で活動



萩ケーブル新社屋入口のマルチ画面の前で

していましたが、家庭の事情で大学進学ができなくなり、それと同時にアナウンサーの夢はあきらめることになりました。今思えば、奨学金などを使って進学する途はいろいろあったのですが、その時は親に負担はかけられないと思ってしまったのです。

28歳で思いがけなく夢が叶う

高校卒業後は、実家(飲食店)の手伝いをしばらくやって、大手化粧品会社の美容部に。県内のある商業施設を転々とする生活でした。地元の友人とも時間が合わないし、商業施設を巡回するような仕事でしたので、職場での友人も作りにくく、一年半で辞めることに。それから「自分探し」「やりたい仕事探し」で東京に出てフリーターをしていました。昭和60年11月に萩に戻り、そして結婚。子供も生まれて2年程たった時、また働きたいと思い職探しをしているところに、萩ケーブルネットワークのアナウンサー募集の新聞折込に出会いました。応募したところ採用となり、中学の頃からの夢がいきなり実現してしまいました。といっても、小さなケーブル局ですので、アナウンサーの仕事だけでなく、企画も作るしVカメラ抱えて取材にも行く、編

集もすると、番組作りの一から十までこなさなければなりませんでした。

現在、社歴13年、番組制作の責任者に

入社が平成2年でしたので、今年で13年目、会社の中でも社歴は上から3番目。現在約20名の制作スタッフと番組作りに取り組んでいます。管理職という立場なので、現場に行く時間がなかなか取れない状態ですが、現場感覚を忘れてはいけないと思い、毎週1枠は自分自身で担当しています。この4月からサービスエリアが阿武町・須佐町にも拡大し、新たに「阿武・須佐チャンネル」の番組制作の仕事が単純に増加しました。平均帰宅時間は午後9時、遅くなれば午前0時近く。なかなかハードな仕事ですが、「いつも見ているよ」「TV画面であなたを見るとほっとする」といった地域の視聴者の皆さんに支えられて頑張っています。現在の最大の関心事は「家事」。主人も協力してくれるのですが、やはり自分できっちりやると家事をしたいというか、しなければならぬと思うています。仕事と家事の両立、悩んでいるというとうんわりになりますが、悩みながらも仕事も家事もきっちりやっています。と思っています。(談)



この4月江向の県立萩美術館・浦上記念館の向かいに竣工した萩ケーブル 本社社屋

プロフィール

昭和37年10月萩生れ。幼稚園から高校まで萩光塩学院。昭和60年12月に結婚、子供は現在高校2年と小学校3年の2人。平成2年10月に萩ケーブルネットワークに入社。趣味は読書作家のミステリーもの、読書量は年間で100冊くらい。ガーデニングもちょっぴり。

龍作の名は残し、自由に制作を続けたい

龍作氏 12代三輪休雪を襲名

4月7日、椿東上野の自宅での記者会見で、三輪龍作氏（62歳）が12代休雪を襲名し、萩焼人間国宝の11代休雪氏（93歳）は寿雪と陶号を交えることを発表しました。

■11代三輪休雪氏



■三輪龍作氏

龍作氏は、「何年も前から父から襲名を促されてきました。父も満93歳になり、私は長男で、子どもの頃から12代を継ぐように育てられた。自分なりに心を整理し、決意しました。三輪窯の責任を果たす」と襲名までのいきさつを述べました。

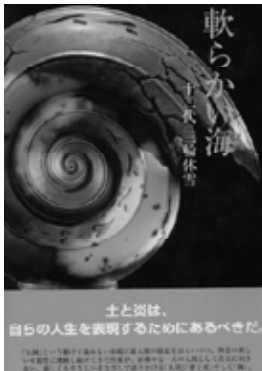
将来の作品作りについては「12代休雪に軸足を置きながら、形の上では龍作の名は残し、将来作品によっては龍作で発表するかもしれない。固苦しく考えず、自由に製作を続けたい」とし、伝統的萩焼の製作への転換を否定、独自の創作姿勢で今後も活動を続けていく意気込みを見せていました。

一方、寿雪氏は「世代をゆづつたから隠居しづらぶらすつもりは毛頭ない。従来どおり仕事は続け、萩焼の発展向上のため終生努力していくつもりです」と語り、引き継いで欲しいものは、という質問に「従来の萩焼の伝統を踏襲するだけでは意義のないこと、自分なりの発想をもとに作品を発表

してほしい。伝統的な作品とともに、彼なりの発想の作品も制作することは良い。武蔵の二刀流で差し支えない、安心しろ」と龍作氏の方に向き、龍作氏の作陶姿勢を支持しました。

最後に、龍作氏は今一番やりたいう事として「日本のすばらしい茶室がわび、さびだけで語られるのはもったいない。変革していく21世紀の時代に合う、現代文化の生きている茶室に開放していきたい」と従来の茶陶に新境地を開いていく考えを語っていました。

12代三輪休雪（龍作）氏は6月にエッセイ集「柔らかな梅」を出版予定。講談社 2000円



山口県立萩美術館・浦上記念館だより

遊べや遊べ！

子ども浮世絵展

5月11日まで

くもん子ども研究所の新収品を中心に、喜多川歌麿や歌川広重ら当代一流の浮世絵師が子どももの日常を描いた作品を紹介します。

入館料 一般500円、学生400円

竹久夢二展

5月17日～7月13日

画家竹久夢二は歌人としてだけでなく、デザインやイラスト、装丁などの分野でも活躍。本展では



日本画、油絵、水彩画、楽譜表紙原画、ペン画、スケッチなどで夢二の足跡をたどります。
開館時間 午前9時～午後5時休館日 月曜日
入館料 一般1000円、学生800円
問い合わせ 山口県立萩美術館・浦上記念館 (08388242400)

中井川由季の茶室「真昼の月」



「月に寝る」(手前)、「月に浮く」(奥)

県立萩美術館・浦上記念館が著名な芸術家に一年を通して開放する茶室に、女性陶芸家の中井川由紀さん（茨城県八郷町）の作品が展示されました。「月を喰む」をテーマに巨大なさなぎを思わせる高さ75cm、幅2・28cm、奥行き78cmの作品が展示中です。
来年2月29日まで公開されます。

情報アラカルト

関東地区

■秋光塩学院同窓会関東支部

秋光塩学院関東支部の同窓会を次のとおり開催します。

とき 5月25日(日) 午前11時

ところ 杉並区高円寺 メルセス会修道院

■「日本陶芸展」

萩焼作家・岡田裕、玉村登陽の作品が展示されます。

とき 5月15日(木)～27日(火)

ところ 東京都千代田区 大丸デパート

■新興展

日本画家・内田青虹の作品が展示されます。

とき 5月21日(水)～30日(金)

ところ 東京都台東区 東京都美術館

関西地区

■関西からたち会総会

からたち会関西支部の総会を次のとおり開催します。

とき 6月14日(土) 午後6時

ところ 大阪市北区兎我野町 民芸茶屋 豆狸

■新興展

日本画家・内田青虹の作品が展示されます。

とき 6月17日(火)～22日(日)

ところ 京都市左京区 京都市美術館

東海地区

■東海指月会総会

東海指月会総会を次のとおり開催します。

とき 7月6日(日) 正午～

ところ 名古屋市中村区 名鉄グランドホテル

中国地区

■守繁栄徹・徹父子展

萩焼作家・守繁栄徹・徹の作品が展示されます。

とき 6月24日(火)～30日(日)

ところ 鳥取県米子市 米子天満屋

山口県関係

■第26回日本伝統工芸新作展

萩焼作家・岡田裕、波多野善蔵、波多野英生、樋口大桂、松尾操風の作品が展示されます。

とき ところ

5月14日(木)～25日(日) 下関市 下関市立美術館

6月6日(金)～11日(水) 徳山市 近鉄松下百貨店

■日本伝統工芸展50年記念展「わざの美」

萩焼作家・三輪休和、休雪、岡田裕ほか150点の作品が展示されます。

とき 6月13日(金)～7月6日(日)

ところ 山口市 山口県立美術館

九州地方

■九州指月会

九州指月会を次のとおり開催します。

とき 7月13日(日) 正午～

ところ 福岡市中央区天神 平和楼

萩市関係

■萩工業からたち会総会

からたち会の総会を次のとおり開催します。

とき 5月10日(土) 午後6時30分

ところ 萩工業高校体育館

■萩高同窓会八八会

萩高同窓会八八会を次のとおり開催します。今年の引受期は40期(昭和63年卒)

とき 8月8日(木) 午後7時

「あずみ」

5月10日いよいよ劇場公開！

小山ゆうの人気コミックを原作したアクション映画「あずみ」が今月10日から全国東宝邦画系で公開されます。主人公あずみの敵役・甲賀流忍者飛猿役を演じるのは萩出身の若手俳優 松本実氏(29歳 吉田町)です。お楽しみに。



●ストーリー

徳川家康側近の高僧南光坊天海は、反乱の未然防止のため最強の戦士を育てよという密命を下す。しかし殺しの英才教育を受けたあずみたちを待つのは過酷で非常な運命だった。主演 上戸彩

5

ところ 萩高等学校体育館

■ギャラリー草莽の企画展

●カフェ・ジエネレーション

萩焼作家・金子司の作品をはじめ、山口市を中心として県美展などで活躍する若手アーティストによるカフェの空間を紹介します。

とき 5月5日(祝)まで

●じゃらんじゃらん展

東南アジアを中心とした民芸品が展示されます。

とき 5月16日(金)～22日(木)

ところ 萩市土原 長屋門珈琲カフェティカル内ギャラリー草莽(0838・26・2933)

■ヴィレッジのコンサート

ジャズピアニストジュニア・マンスのコンサートが開かれます。

とき 6月2日(月)

ところ 萩市土原 喫茶ヴィレッジ

入場料 7000円

問い合わせ ヴィレッジ(0838・25・6596)

■第6回南日本音楽祭

中央や県外を中心に音楽活動を展開している萩・阿武出身のミュージシャン、グラスホッパー(秋山桂 萩高卒)、コーシ(萩高卒)、キャバレット(吉村孝太郎、小田幸一郎 萩高卒)のコンサートが開かれます。

とき 5月24日(土)

ところ 萩市民館大ホール

入場料 一般2000円、高校生以下1500円(当日3000円増)

問い合わせ

(090・4145・2085)

老谷

■俣宿天十平の企画展
大屋窯の磁器が展示されます。
とき 6月6日(金)〜16日(月)
問い合わせ 俣宿天十平
(08388266474)

出版情報

■「山尾庸三傳」兼清正徳

萩・石見空港

開港10周年記念格安プラン

石見空港利用拡大促進協議会では、開港10周年記念として、飛行機と宿泊代をセットにした格安プランを販売中です。ぜひ、ご利用ください。

●石見ふるさとパック(東京大阪発着)

旅行代金(1泊朝食付)
・東京発着 2万1700円
・大阪発着 2万4000円
ホテル 萩観光ホテル、ホテルミレオマーレ(田万川町)ほか

※申し込みは10日前まで、1人から利用できます。また、7日間までの延泊(6泊7日)が可能です。

申し込み 防長トラベル 萩営業所
(08382221861)
ツリーリスト 山口
(0838266412)
エヌティーエー旅行
(0838210020)

山口市出身で「日本工業の父」と言われた山尾庸三の伝記。伊藤博文らと英国留学した「長州5人組」一人。
273ページ。

定価 2500円

出版 吉川弘文館

■「毛利重就」小川國治

江戸時代中期の萩藩主。維新動

乱期の長州藩軍資金ともなる資銀を蓄える基礎を築いた名君の事績と実像を描く。
245ページ。

定価 1800円

出版 吉川弘文館

■「江戸の旅人吉田松陰 遊歴の道を辿る」海原徹

旅から学んだものが主張や行動にどう反映されたのか。松陰が歩いた道筋を辿り、謎に迫る。
378ページ。

定価 4800円(税込)

出版 ミネルヴァ書房



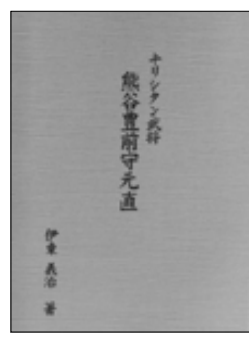
■「クリシタン武将 熊谷豊前守元直」伊東義治

著者は秋市川島に生まれ、旧制萩中学校卒。毛利家重臣で熱心なクリシタンだった熊谷元直と、山

口の琵琶法師で敬けんなクリシタンだった盲人タミアンの殉教を通して、江戸時代初期の萩藩の宗教統制について考察する。
B6版 206ページ。

定価 1000円(税込)

問い合わせ 萩市土原 カトリック教会(08382220732)



■「萩・ぶち得ガイド」

観光客の要望に因應するため、6つのジャンル(泊まる、食べる、萩焼、お土産、観る、楽しむ)を記載したガイドブック。ガイドブックの最後にお得なチケットがあり、これを利用すると各店舗に設けられている特典をうけることができる。
70ページ

定価 500円(税込)

問い合わせ 萩市観光協会
(0838251750)



萩・文学散歩

大佛次郎 「旅の誘い」



松下村塾

の一冊として刊行された大佛次郎随筆集も「旅の誘い」と題されたものであった。その中に収められている「松下村塾」は、昭和41年4月に発表された短い萩訪問記で、萩に旅して著者が最も深く心を寄せたのは、吉田松陰の感化力の強さについてであった。

著者は松下村塾について以下のように結んでいる。

「しかし、小さく手狭なので見る者を最も驚かし、感動を呼ぶのは、彼ら青年たちを教えた吉田松陰の松下村塾の古い建物である。当時のまま保存されているのだが、生徒の溜まり場の十畳間と松陰が講義した八畳の一部屋と、古だたみを敷いた二つの部屋だけである。」

大佛次郎(本名野尻清彦)は、明治30年10月9日、横浜に生まれる。学生結婚で鎌倉の長谷大仏裏に住む。そこから大佛次郎のペンネームが生まれる。以後、昭和40年までの約40年間に長短47作の鞍馬天狗連作書く。また、「バリ燃ゆ」、「天皇の世紀」など、深い教養と批評精神に裏打ちされた質の高い歴史小説も書く。歴史小説を書くにあたり、史料にたよるだけでなく、「歴史の土地を自分の足で踏んでおいをかぐだけで安心できる」といい、旅を大切にしていた作家である。

平成14年10月に講談社文芸文庫

それぞれの幕末維新(4)

萩藩武具方御用達商人 梅屋七兵衛

梅屋七兵衛は、本姓を山本といいますが。山本家は、古くは萩城下の港町であった浜崎町(現、萩市浜崎町)に居住し、他国回船の積み荷を取り扱う北国問屋を営んでいました。嘉永2年(1849) 橋西分の大屋(現、萩市椿大屋)で酒造業を始め、ついで嘉永5年に萩城下の東田町(現、萩市東田町)に移り住み、引き続き酒造を生業としました。

元治元年(1864) 萩藩の武具方御用達を命ぜられ、武器類を調達するため、長崎へ派遣されるようになりました。翌慶応元年(1865) 2月、萩藩の方針が幕府への対抗と決すると、同年4月、藩は軍備を拡充するために、小銃千挺を長崎で購入し大津郡仙崎浦(現、長門市仙崎)に回漕して、現品を受け取った上で代金を支払うよう七兵衛に命じました。

当時、長州人は他国へ出ることを幕府側から厳しく監視されていた状況で、七兵衛は死を覚悟して、木戸孝允や伊藤博文・品川弥二郎などに相談しました。そこで幕府の手を逃れるために、長州人ではなく、芸州人ということを証明する偽の通行手形を持参することになりました。いよいよ出発にあたり、七兵衛は妻子たちと水盃をくみ交わし、妻に覚悟を打



梅屋七兵衛肖像写真

ち明け万事を託し遺言したといいますが。

こうして七兵衛は海路、長崎へ到着し、以前商談を持ちかけた外国商人と交渉を始めましたが、購入価格が釣り合わないで交渉を打ち切り、イギリス商人ガールと購入契約を結ぶことになりました。ところが、最初に商談を持ちかけた外国商人はこれを怨み、幕府の長崎奉行に密告しました。七兵衛は奉行所に捕えられ、尋問を受けることになりました。この時、七兵衛はかねて用意していた偽の通行手形を示し、芸州の使者であることを主張しましたが、奉行はなかなか信用してくれません。奉行は七兵衛が以前から武器調達のために、長崎へ派遣されていたことを知っていたのです。そこで七兵衛は、「自分はずっと芸州生まれで長州に養子に行きましたが、今や長州と幕府は戦端を開こうとしています。長州と芸州とは互いに敵となり、時勢が急迫しましたので、芸州の実家に帰りましたところ、これまで武器調達のため長崎へ派遣されていた実績を見込まれ、このたびは芸州の使者として小銃を購入するために派遣された次第です」と弁明しました。奉行側では、早速、芸州に実否を問い合わせることにになり、その場はおさまりました。

しかし、七兵衛は身の危険を感じ、小銃の購入契約を結んだガールのもとに、身を寄せました。ガールは七兵衛を自分の船に同乗させ、上海に逃れることにしました。この間、洋上で七兵衛は、「千鳥のみ大和言葉や船の中」という句を詠んでいます。日本に残した妻子を思いやり、不安でいっぱいなのは七兵衛の胸中を察して余りあるものがあります。上海に着船すると、ガールは小銃を調達するために直ちにイギリスに帰国し、七兵衛はガールの友人の家に居候することになりました。異国の地、上海で、七兵衛は約1か年を過ごすことになりました。

一方、萩の留守宅では、七兵衛から何の音沙汰もないのを家族や親族たちが心配し、葬儀の話まで持ち上がったといえます。七兵衛が留守の間、妻は気丈にも使用人たちを指揮し、家業を切り盛りしたと、七兵衛の次男にあたる友一郎が後に回想しています。また、木戸孝允や

伊藤博文・品川弥二郎も代わる代わる慰めに訪ねてきたそうです。

七兵衛が上海に上陸して約1年後、ようやくガールは小銃を調達し上海に入港しました。早速、ガールは七兵衛を同船して仙崎浦を目指し、帰国の途に着き、慶応2年10月、無事仙崎浦に帰着しました。ところが、仙崎の人々は見慣れない西洋船に異国船の襲来と勘違いし、数多くの農兵たちが出動し戦備を整えました。ガールは船上から望遠鏡でこの様子を見、恐れおののきましたが、七兵衛が上陸して事の次第を話したので、取りあえず騒動はしませんでした。

七兵衛は小銃の購入代金を藩から受け取るために、いったん萩へ帰ろうとしたのですが、ガールは今回の騒動を恐れ、船内に人質として妻子いづれかを差し出すように要求しました。七兵衛は萩へこまごまと手紙をしたため、人質には、七兵衛の次男で12歳になる友一郎が行くことになりました。こうして、藩から小銃千挺の代金1万8千両が支払われました。当時、藩の財庫のあった山口から仙崎まで、馬の背に2箱ずつ積んだ千両箱の長い行列が続いたといえます。

さて、人質にとられた友一郎の回想記によると、船内では船員たちに可愛がられ、ジャムや葡萄酒、ビスケットなどを振る舞われたそうです。彼の食事は、仙崎の庄屋の家から船内に運ばれ、

船員たちはそれを珍しがり、煮しめを差し出すと彼らは美味しく食べたといえます。武器の調達にあたって少年をも巻き込んだ幕末の騒動が、一少年と異国人たちとの思わぬ交わりをもたらしたといえます。

萩市郷土博物館

樋口尚樹

▼偽の通行手形

